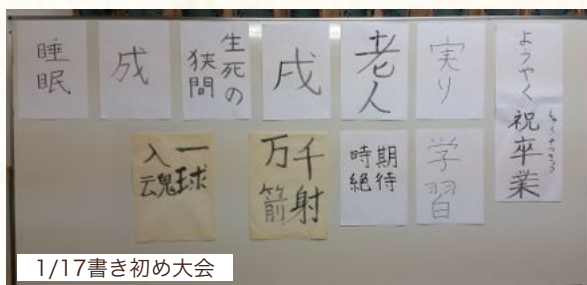


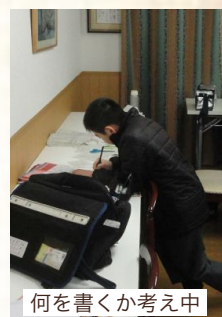
JANUARY PHOTO ALBUM



1/15新年祝いで乾杯！



1/17書き初め大会



何を書くか考え中



カンニング



品評



作品発表順決め



グッドな作品



難解



ユーモアと決意の絶妙なバランス



皆の投票の結果
書き直しに



書き直し2号



study!



書き直し3号



書き直し4号



抜群の安定感



とどまるところを知らない創作力



1/21運動不足解消の会



2月の特別活動の予定

2/4 (日)

グループホーム訪問

グループホーム川平の方々には生徒が訪問するといつも心から喜んでくださいます。自分の殻を破って成長するチャンスでもあります。

2/12 (月)

月の黙想会

学年末テストに向けての沢山の勉強。それを永遠の価値のあるものにできるよう、神様にお恵みを願いましょう！

2/18(日)

テスト前勉強会

才能豊かな君たちが楽をして「そこそこ」の点を取ることは許されません。目標を高く定め、それに合った手段を効率よく実行し、自分の能力を最大限開花させてください！

今月の司祭のお話

「履物を揃える自由」

最近渡辺和子さんの書かれた本を何冊か読んでいます。とても素晴らしい話がたくさん出てきて、多くの気づきや発見をさせてもらえます。その中で出てきたちょっと興味深いお話を紹介しましょう。

渡辺和子シスターは36歳という異例の若さで岡山にあるノートルダム清心女子大学の学長に就任します。大変重い責任を担う仕事をその後30年近く務められます。その間、うつ病を患うことも経験されますし、



1984年にマザー・テレサが来日された時には通訳も務められました。その後、学長職は引退されるのですが、ふとしたことで東京の自由学園というところで、キリスト教価値観という講義を3年間担当されます。自由学園というのは初めて聞く学校の名前でした。調べてみると、キリスト教の精神に基づく幼稚園・小学校・中等科・高等科そして最高学部という大学に相当するものを持っている学校でした。一学年一学級、そして調べれば調べるほど、面白いユニークな学校であることがわかりました。オノ・ヨーコや坂本龍一、あるいはノーベル化学賞をとった野依良治もこの学園の出身のようです。ユニークさの一端を紹介する新聞記事があります。タイトルは「給食ではなくお食事・自由学園で96年続く昼食とは」というものです。毎日の昼ごはんを作るのは、中高生自身。当番の生徒が全員分を調理して用意する方法を96年間続けているそうです。当番は、中等科1年から高等科2年までが1学年ずつ日替わりで務める。学年の半数の生徒が3、4時間目の授業で食事を作り、残りの半数は食器の後片付けを担う。どんな学校だろう？と興味がどんどん湧いてきます。この学園の創立者は羽仁もと子（1873-1957）という女性です。その方がおっしゃった短いフレーズにこの学園の創立の精神が表されています。

「皆さんには、履物を揃えるという自由があります」

人間は良い生き方を選択するために自由を与えられている。良い生き方をするには、何が良いことであるかを自らに問い、与えられた自由をどのように使えばよいのか、自分で考え、判断し、行動することが必要です。その行動の結果、自分もそして周りの人



も幸せになっていくことができるのです。それを端的に表したのが上記のフレーズだと思います。私たちも一人一人が「自由な人になる」ということについて思いを馳せてみる必要があるなと感じさせられました。〈裕恵介神父〉